

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400290		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームはこだて乃木 (1階 花*花)		
所在地	北海道函館市乃木町4番32号		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigrosyoCd=0191400290-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日、入居者様が笑って楽しく過ごせる様、職員一同努めています。(職員自身も楽しく仕事ができる様に)
 ・地域住民の協力を得て、催し物等に参加する事で、ホームについて理解して頂き、地域交流を行っています。
 ・入居者様一人ひとりの想いを尊重し、出来る事は見守りを行い、出来ない事は支援する事で少しでも自立した生活を送れるよう努めています。
 ・ご家族様との信頼関係を築けるよう、来訪時には声掛けを行い、変化が見られた際には電話連絡をし、気軽に相なんでも談できる関係作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホームはこだて乃木」は、陸上自衛隊函館駐屯地より徒歩5分程の所にある乃木町内会館の近くに立地している。3階建ての建物で1階と2階がグループホームで3階は持ち主の住宅となっている。運営法人は全道19ヶ所の認知症高齢者グループホームと各地で高齢者福祉事業の運営に携わっている。管理者と職員は利用者の尊厳を守り、一人ひとりに寄り添って自分らしく暮らせる支援に取り組んでいる。玄関の小さな置物は愛らしさと季節感を表わし、訪れる者が自然と笑みが浮かび、事業所内は家庭的雰囲気がある。利用者は、入居時に暮らし方の希望や思いを伝えたり、終の棲家である意思表示する時もあるが、家族と信頼関係や協力体制を整えながら利用者が安心して暮らせるよう取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に学び・共に歩み・日々寄り添う」を理念に掲げています。職員全員が共通意識を持ち、日々支援出来るように取り組んでいます。	法人の基本理念である「敬愛、信頼、安心」を基に職員間で考案した理念を事業所内に提示すると共に職員会議の中で意見の統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会で催される行事に、出来るだけ参加させて頂いております。また、ホームでの行事にも参加して頂けるよう案内をしたりと交流を深めています。毎年、近隣の保育園園児の来訪もあります。	町内活動には積極的に参加して顔馴染みの関係を築き事業所の行事には協力が得られている。保育園児の歌や踊りに心を癒され、バスラーメンの来訪に近所の方々も多数訪れるなど交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練等、近隣住民のお宅を訪問し、お知らせしています。また、日々地域の人々と交流を多く持つことにより、理解を深めて頂けるよう取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族様・建物オーナー様や町内会役員様・地域包括支援センター様・市役所職員様等が参加され、ホーム内での活動状況などを報告し、要望・助言を頂き、サービスの向上に努めています。	定期的開催している運営推進会議は、運営、活動、行事などの報告と共に講師を招いてノロウイルス対策の実演など、議題をかえて参加メンバーを確保し必要な要望、助言を聴いてサービスの質の向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方と、日々連絡を取っています。困った事があれば、相談しアドバイスを頂いております。	市担当者とは、事故報告や相談事、改善に向けてのアドバイスを受けたり気軽に立ち寄ることもある。ケースワーカーが担当利用者との面会に訪れ情報交換をするなど、良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人が作成した「身体拘束マニュアル」をいつでも閲覧出来るようにしています。また、勉強会を通して理解を深め、サービスの質の向上を目指しています。	法人は独自の身体拘束防止マニュアルを作成し、道内の系列事業所の管理者研修の議題に取り入れ、拘束防止に対する意見の統一を図っている。計画作成担当者はチェック表で職員の意識を確認し、結果を会議の中で検討するなど拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人が作成した「虐待防止マニュアル」をいつでも閲覧出来るようにしています。また、年2回の勉強会を設け理解を深めています。		

ふれあいの里 グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様が年々増加していますが、なかなか勉強会や研修会に参加出来ていないのが現状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や入居後も都度説明しています。また、改訂があった際も、ご家族様に文章で説明、納得したて頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しています。また、苦情等があった場合は、早急に話し合いを行い、解決・改善出来るよう努めています。	家族の面会時には利用者の状況報告と共に意見や要望を伺っている。遠方の家族も同様に電話や便りを出す時には必ず申し添えており、緊急を要する時には早急に対応するなど反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行っています。また、日々の会話や会議の中で職員から意見を聞き出せるように努めています。	管理者は、職員の表情を汲み取り、話し合いをしたり、必要に応じて上司との個人面談を実施している。シフトの相談や社内異動などを含め意見や要望を取り入れて働きやすい環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の勤務態度や努力を評価し、向上心を持って働ける環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じて、内部研修を定期的で開催しています。また、外部研修があった際は、職員に知らせ参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や勉強会に参加し、同業者と交流が図れるよう努めていきたいです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様とゆっくり時間をかけてお話しし、その中で不安や要望を聞き出せるよう努め、少しでも以前の生活に近づけるよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時に、困っている事等聞き出せるように努めています。また、入居後は来訪時等に話をする事で少しずつ信頼関係が築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたり、事前の話の中でどのような支援が必要かと考え、対応出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食は一緒に食べています。他、入居者様と一緒に過ごす時間を作り、余暇活動を行ったりと、暮らしを共にする関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、入居者様の様子を記載したお便りを送らせて頂いています。また、ご家族様が面会時に、近況をお話するように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が時々来訪されています。その際は、職員も間に入りお話しさせて頂いています。そうすることで、いつでも来やすい環境作りをしています。	地域で暮らす知人、友人も高齢化が進み、家族と一緒に友人が訪れたり、海の近くに住んでいた利用者の希望で海に出かけ自宅近辺をドライブするなど、利用者からの申し出には臨機応変に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、関係が持てるよう必要に応じて職員が間に入り支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、サービス終了後は関わりを必要とされるケースはなく、サービス終了後も関わりを必要とされる場合は、支援していきたいと思えます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で思いを聞き出せるよう努め、聞き出した情報は職員全員で共有出来るようにしています。また、困難な場合は、表情や仕草にて思いを把握出来るように努めています。	自分らしく暮らし続けるために意思表示されて入居した利用者に全職員が思いや意向を汲み取り、家族を交えて本人が暮らす最良の方法を話し合いながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限りご本人様・ご家族様より情報を聞き出せるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日見守りを行って、状況を把握するよう努めています。また、職員間で情報交換・共有する事で一人ひとりの状況を把握出来るよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行っています。また、必要に応じて話し合いを行い、計画作成しています。ご本人様・ご家族様からの意見を聞き出せるよう努めています。	本人、家族の意見や要望を取り入れ日々のケアの記録やモニタリング評価表で解決すべき課題や目標を定め、往診時にかかりつけ医の意見を参考に担当者会議の中で検討し、計画作成担当者が現状に合わせて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を介護記録に記載しています。特変があった際は、色を変えて記載するようにしています。記録を基に介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われず、状況に応じて柔軟な対応出来るように日々話し合いを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回のボランティアの方が来て下さり体操を行ってくれています。また、別の方の来訪もあり。他、近隣の保育園の園児が来訪してくれます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様が希望する医療機関へ受診しています。また、飯田内科クリニックと医療連携を結んでおり、月2回の往診、毎週の健康管理指導、緊急時は24時間体制で支援してもらっています。	月2回、協力医の往診があり、毎週1回の訪問看護師を中心に利用者の健康状態を把握して受診の支援をしている。職員は緊急時の対応の基礎知識を種別ごとに勉強会を実施し、夜間体制も整え適切に医療が受けられるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日、医療連携を結んでいる病院の看護師が来訪され、状況を報告しています。その他、状態に変化が見られた際は、電話連絡し対応して下さります。(365日24時間対応して頂いております)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合は、ご家族様に連絡し、病院へは介護添書を作成し、情報提供しています。入院中も、お見舞いへ行き、状況を確認するよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期については、入居の契約の際に話をしていきます。また、その時が訪れた際にもう一度ご家族様と話し合い、入居者様にとって最良の方法を医療機関、職員を交え考え支援しています。	契約時は事業所の方針を説明し同意を得ているが、重度化に伴い家族からの再確認と職員間で話し合い、医師との協力体制を整えながら利用者の意思を尊重しながら、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、救命講習を受ける等対応出来るように備えています。また、日々の申し送りや会議にて話し合いを行うようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火避難訓練を年2回実施しています。今年度は、災害訓練を初めて小規模ですが行いました。避難訓練では、地域住民・消防職員立会いにて行っています。	1回目は通報から避難誘導などの自主訓練を実施し、2回目は消防立会いのもとに自然災害を含めた訓練を実施して反省点が話し合われている。地域の方々の参加は防災意識を高める役割をしていると評価されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、プライバシーの保護、言葉使い、言葉掛けに注意しています。	職員は利用者を人生の先輩として敬い、羞恥心に伴う配慮の徹底を図っている。職員は守秘義務を守り、個人記録は一定の場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思で物事を決定できるよう、声掛けや見守りを行っています。それが困難な方には、声掛けし表情を読み取る様努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々のペースに合わせ、希望等をお聞きし、その人らしく過ごせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、爪切りやうぶ毛剃り、訪問美容室来訪にて散髪の実施。髪染を希望する方には髪染も行ってもらっています。また、髪型や洋服の乱れがないか確認しています。		

ふれあいの里 グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	会話をしながら楽しく食事しています。摂取方法や栄養バランスを考慮し食事を提供しています。お盆拭きやテーブル拭きは出来る方にお願ひし、手伝って頂いております。	法人の管理栄養士が作成した献立に合わせ食材が届き、利用者は調理の下ごしらえをしている。行事食は本人の希望を取り入れ、おやつは手作りにこだわり、食事を一日の活動のひとつにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量の管理、記録を行い、一人ひとり支援しています。食事・水分量が少ない時は申し送るようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。その際、口腔内の状態を確認しています。介助の必要な方は、介助にて行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレにて排泄が出来るよう声掛けや排泄リズムを把握して介助するように心掛けています。	利用者の表情や動作から声がけや誘導を促し、個々の排泄パターンを把握し、頻繁に訴える時にはよく話を聞いて対応するなど、トイレでの排泄を全職員で共有し取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の際に、排便の有無の確認を行っています。また、排便のリズムを把握し便秘気味の方には主治医の指示にしたって下剤服用してもらっています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上入浴が出来る様に心掛けていますが、その日の体調に合わせて無理せず入浴してもらうように努めています。	週2回の入浴は体調に合わせてたり、在宅当時よりシャワー浴のみの方、かかりつけ医の指示で心臓の弱い方、皮膚疾患など、一人ひとりに合わせてシャワー浴や足湯で対応している。脱衣所は床暖房が施され明るく清潔感のある浴室である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合った時間に起床、就寝をして頂いております。時間は特に決めず入居者様に合わせる様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や目的、副作用等把握するように努めています。服薬の際は職員2名にて確認を行い、服用してもらっています。また、配薬表に記入する事で各自責任感を持つようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた行事や誕生日会を実施しています。その他、入居者様の好みを取り入れた昼食会を行い、目先の変わった物を提供し単身で頂く工夫をしています。		

ふれあいの里 グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春はお花見、夏は夏祭り等行事として出掛けています。また、天気の良い日は近隣を散歩したり、ホーム前の駐車場で日光浴をしたりしています。	春は近くの桜ヶ丘通りに咲く見事な桜の花を見たり、乃木神社や小公園など散歩に適した環境にある。学童保育の園児の遊びを眺めたり、夏祭りで夜店の屋台で食べては昔を思い出すなど、天気のよい日は各方面に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは金銭の預かりをしていません。必要に応じて物品を購入した際は、立替し入居料と一緒に請求させて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり、手紙のやり取りの希望がある場合は、その都度対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同に使用するトイレや浴室にはわかりやすく表示をしています。各居室には各自表札をかけています。また、玄関やリビング・壁には季節に合わせた飾り付けを行っています。湿度や温度管理に注意し、快適に過ごせる様に努めています。	玄関入口には小さなお雛様を中心に愛らしい置物が季節感を表わし、畳の小上がりのある居間は開放感がある。テレビ前のソファには利用者の居場所が確保され、大きな窓からの採光もやわらかく、安心感を与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・リビングの席は、入居者様同士が過ごしやすい様工夫し、思い思いの時間を過ごせる様努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居者様・ご家族様の希望を取り入れ、レイアウトしています。また、持ち込むものは使い慣れた物を持ち込んで頂くよう入居前の面談にてお話しさせて頂いております。	居室は在宅当時の家具や日用品が持ち込まれクローゼットが備え付けられている。各居室は個性的で家族の写真を飾ったり、仏壇などがあり居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、お風呂場に手すりを設置しています。また、障害になるような物は置かない様にし、安心、安全に自立した生活を送れるよう努めています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400290		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームはこだて乃木 (2階 あおぞら)		
所在地	北海道函館市乃木町4番32号		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人一人のペースを尊重し、毎日、穏やかに過ごして頂けるよう職員一同日々取り組んでいます。また、職員は研修会や勉強会へ参加し、サービス向上に努めています。地域との交流も大切にし、夏祭りや敬老会、新年会などの町内会の行事に参加、地域の方々に理解して頂けるよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigrosyoCd=0191400290-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年2月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体が同じ姿勢で実践出来る様、ホーム内数ヶ所に理念を掲げ、日々取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会での行事に参加させて頂いたり、ホーム内で色々な行事(昼食会)へ参加して下さったりと交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントに参加させて頂いたり、ホーム内の行事はお知らせをして地域の人々と多く交流を持ち、理解を深めていけるように努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動状況など報告し、運営推進会議で出された意見や要望など会議で話し合い、職員全員が取り組むように努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当の方々と日頃から連携を図り、サービス内容を伝えたり、市町村が行う研修に参加している。何でも相談できる関係作りに努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対して、職員全体が認識を高めて、内部研修・勉強会など、積極的に参加してサービスの質を高めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の御家族様へ毎月のお便りでご本人様の状況をお伝えしています。また、研修会や勉強会の実施、職員同士での気付いた事など、互いに注意できる関係作りに努めています。		

ふれあいの里 グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後も必要な制度を利用する方が増えていくと考えられるため、職員全員が制度について理解できる様、研修会などに参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に御家族様に文書で説明し、納得していただけるまで話をしています。入居後、必要に応じて説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の設置、苦情相談があった時には、会議の中で話し合い、共有しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中でどんな事でも発言し、話し合える環境作りをしています。又、管理者は随時面接し、意見を聞く場を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の勤務状況を把握し、勤務に対する姿勢や努力を評価できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年数回行う内部研修への参加や、月1回の勉強会また、外部研修へ参加し、職員のトレーニングに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や講演会に積極的に参加し、他施設との交流、意見交換が図れるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と時間をかけてお話しし、不安を解消すると共に以前の生活に近づける様努力します。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様来訪時等に話しかけ、要望や不安など伺い、いつでも相談できるよう関係を築きます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の生活環境を聞き、なるべく以前に近い生活をして頂けるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様に常に寄り添う気持ちを忘れず、家族のように支えていけるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様といつも話せる関係を作り、ご本人様がいつも笑顔で過ごせる環境を作ります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで生活してきた馴染みの人や物などを大切にしていきたいです。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	遊びやゲーム等、一緒に楽しみます。一緒に楽しめない方には無理強いせず見守り、寄り添い、支援します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関わりを持ち、必要としている際、支援を行い、必要に応じて情報収集・提供に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、ご本人の思いや希望を聞き入れ、困難な時はご家族と情報を共有しながら支援できるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表から環境や生活を把握し、ご家族からも情報を得る様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や申し送り、職員間での情報交換により、状態の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を重視し、カンファレンスで話し合い、介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもの違った事柄は介護日誌に特記事項として記入、申し送りや会議で話し合い、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内のグループホームで意見交換を行い、支援・サービスに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回程、ボランティアの先生による、ストレッチ体操を行っています。その他にも、ボランティアの方々が来て下さっています。町内会の行事にも参加し、地域の方々の協力を得ています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様とご家族が希望する医療機関に受診しています。適切な医療を受けられるよう、かかりつけの主治医に指導・助言を頂き、連携しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に看護師が訪問、健康管理指導を受け、健康状態を把握しケアしています。必要時はいつでも看護師と連絡を取り合い、指示を仰いだり、訪問して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関への情報提供を行い、すぐにご家族様へ連絡を取り、状況を報告、早期退院が出来るよう、ご家族様・医療機関と常に連携を図り情報交換をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に重度化や終末期に向け、ご本人様、ご家族様の意向を確認しています。主治医や看護師へ情報提供し、看取りの方針について、ご家族様に説明しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所に事故発生時や急変時の為のマニュアルを作成し、提示しています。また、防災訓練、も行っていきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火・避難訓練を年2回実施しています。今年度は災害訓練を小規模ですが、初めて行っています。避難訓練では、地域住民、消防職員立会いにて行っています。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人のプライドを傷つけることなく人格を尊重した声掛けをしています。又、さりげないケア、自己決定しやすい声掛けを心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合で入居者様の思い・希望を妨げない様配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人のペースを大切に、職員の都合ではなく、希望に沿って支援させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望があれば職員と一緒に買い物に出かけ、購入して頂いています。理美容の出張サービスも利用して頂いています。		

ふれあいの里 グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	じゃがいもの皮むき、もやしのひげ取り等、無理なく手伝って頂ける様にしています。職員は入居者様と会話しながら一緒に食事をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は職員全員が把握できるよう、記録やチェック表に記載しています。水分も状態を観察して好みの飲み物を提供するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行っています。自力で行えない方は介助にて口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行い、失敗された時は自尊心を傷つけないように工夫・声掛けを行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様一人一人の排便のリズムを把握し、便秘の原因やその影響の理解に努めています。便秘気味の時は医療連携に連絡、対応させて頂いております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的な週2回以上入浴できるようにしています。一人一人に合わせた入浴方法で支援しています。拒否の場合は声掛けを工夫しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人一人の生活リズムに合わせて、時間にこだわらず、休息して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師の指示のもと、服薬の介助を行っています。職員全員が用法・用量・副作用について把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昼食会や行事等を行い、楽しんで頂いております。入居者様の力を引き出せるような家事・仕事を分担し、行えるように支援しています。		

ふれあいの里 グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに外出する行事を計画し、季節を感じて頂いています。天気の良い日には、お散歩を行っています。ご本人様の希望により、普段行けないような場所へはご家族様と協力し、出かけられるよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自分で金銭管理ができる方はおらず、入居者様の必要時に事業所が物品等を立替で購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方は、職員が付き添いのもと、かけて頂いています。また、手紙はご本人様へ手渡し、または、代読を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同に使用されているトイレやお風呂場などにはわかりやすいように表示しています。また、各居室には表札をかけています。季節ごとの飾りつけも行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やフロアの席は、気の合う入居者様同士自由に過ごしやすいように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の希望やご家族様と話し合い、使い慣れた物やご本人様の望むものを受け入れ、居心地良く過ごせて頂ける様に工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレなどには手すりが設置されており、障害物になるような物は置かない様、安全と安心に配慮しています。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームはこだて乃木

作成日：平成 29年 3月 8日

市町村受理日：平成 29年 3月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1			職員のスキルアップを図る。	内部研修・外部研修へ積極的に参加。 (自分自身に力を付け、やりがい・自信を持ってもらう)	1年間
2			御家族様へのアンケート実施	最初は、簡単なアンケートを実施。 (色々な意見を参考にさせて頂き、より良い介護を提供していきたい)	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。